



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 21 年 12 月 12 日(土)

木製品のメンテナンス講習会 編

のしろ白神ネットワーク発足時から活躍し続けたためか、無塗装だったベンチ類の座に汚れが目立ってきたことや鉄製の脚に錆が出てきたことから、専門家にメンテナンスの方法を教えてくださいながら手入れをし、今後は自分たちだけでできるようになると、(株)相澤銘木・信太さんを講師に招いての講習会が上町ホッとステーションで行われました。

日頃、ここを拠点として活動している上町すみれ会と常盤ときめき隊だけでなく、黒松友の会、能代河川国道事務所、そして事務局の渡辺先生を含め約 15 人の参加です。天気はあいにくの雨。折しも老朽化したアーケードが前日に撤去されたばかりで、室内での作業となりました。

作業は傘スギ縁台の脚やスタンド等鉄製品の錆止めと塗装、能太やプランター等木製品の汚れ落としと塗装です。女性にはあまり馴染みのない作業のせいか、皆さん楽しそうに取り組んでいました。もちろん、男性にとってもワクワク感のある作業です。それぞれが自主的に作業を分担し、臨機応変な対応でお昼頃には予定どおり作業を終えました。

汚れ落としや塗装のために新聞紙を床に敷いたり、ペットボトルを半分にして容器を作ったり、次の事業の打ち合わせや今後の日程を確認しあったりと、あちらこちらで楽しそうな会話と笑い声が聞こえます。2ヶ月ごとの懇談会参加者が少なくても、実際の活動に多くの皆さんが集まり、それぞれにコミュニケーションを深めているのがこの団体の強みかなと思いました(12/9の風景街道の忘年会も賑やかでした)。

作業中は北羽新報や秋田魁の記者が取材に来ていました。特に魁さんは1時間以上もそれぞれの活動内容を取材していました(その対応で肝心の作業にほとんど参加できなかった人も何人かいましたが...)。あちこちで地域づくり活動に取り組む市民が多くなってきましたが、のしろ白神ネットワークも少しは有名になったんだなと感じました。常に資金不足と人不足に悩み、理解者を増やすことと続けることの大変さを痛感しながらも、我々の活動が少しでも地域社会に貢献出来ているとすれば、これからも続ける意義があると思います。そのためにも、活動することの「楽しさ、ワクワク感」をもっと高めることが必要だと思うこの頃です。

ホッとステーション前にウッドチップ舗装したいとの話が出ていますが、ぜひ、木製アーケードの設置も併せて実現できたらと思いました。人が集まる魅力づくりをみんなで語りあえたいですね。

文：佐々木 松夫



鉄部分は紙やすりでサビ落とし、木部は雑巾で汚れをふき取ります。



鉄には黒ペンキを、木部にはラッカーを塗ります。塗装した木肌とそうでないものとは手ざわりが全く異なりますが、防汚効果を優先しました。女性は手も口もよ〜く動いていましたが、男性は一樣に黙々と作業されている姿が対症的でした。



プランターカバー類は内側の塗りにくいところから塗っていきます。汚れが目立ってきたら濃い色の塗料を塗るしかないとの説明に、女性の方々は妙に納得していました。



最後はスギ縁の脚を塗装。大きい刷毛ではたれまずよの先生の言葉を聞かずに縁に水玉模様を作った人も。幾つになっても、先生のお話はちゃんと聞きましょ〜